





## 堺市博物館研究報告 第36号

編集・発行 堺市博物館

発行日 平成29年3月31日

印刷 株式会社アイティ印刷

堺市行政資料番号 1-L4-16-0303

### 堺市茶室

堺市博物館の正面には、国の登録有形文化財の茶室「伸庵」「黄梅庵」があります。立礼席で気軽に抹茶をお楽しみいただけます。(1服300円)

庭園(露地)には、重要文化財の九重石塔(千早赤阪村・浄土寺伝来)が移築されています。庭園観覧は無料です。



## 事業報告（平成27年度）

### <展 示>

- ・特別展  
「堺復興一元禄の堺大絵図を読み解く」 (2)
- ・企画展  
「更紗メイド・イン・ジャパン  
—異国趣味の染色デザイン—」 (3)
- 「昭和ヘタタイムトリップ  
—吉田初三郎のパノラマ世界—」 (4)
- 「むかしの夏、堺の夏」 (5)
- 「“イタスケ古墳を護ろう”  
—破壊から保存、そして世界文化遺産へ—」 (6)
- 「むかしの暮らし  
—ふしぎな道具の数々—」 (7)
- 「和田一族奮戦記  
—中世を生き抜いた人々—」 (8)
- ・速報展  
「長山古墳・ニサンザイ古墳発掘調査速報展」 (9)
- ・常設展示リニューアル (9)
- ・みはら歴史博物館 展示 (10)
- ・さかい利品の杜 展示 (11)

### <資料>

- ・新収蔵資料 (12)
- ・保存修理 (13)
- ・館外貸出 (13)
- ・特別利用 (13)

### <普及>

- ・体験学習会 (14)
- ・博物館コンサート2015 (14)
- ・SAKAI NIGHT MUSEUM (15)  
(サカイ・ナイト・ミュージアム)
- ・2015ミュージアム・パス&スタンプラリー (15)
- ・博物館実習 (16)
- ・博物館学芸員インターンシップ実習 (16)
- ・「日本と世界が出会うまち・堺 2015」プロジェクト (16)
- ・新成人招待プログラム (16)
- ・第33回古文書講習会 (17)
- ・連続講座「百舌鳥古墳群の始めと終わり」 (17)
- ・職場体験学習 (17)

### <無形文化遺産の普及促進事業>

- ・東京シンポジウム—文化遺産を考える— (18)
- ・無形文化遺産理解セミナー  
「こどもも大人も一緒に文楽」 (18)
- 「トルココーヒーの文化と伝統」 (19)
- ・無形文化遺産理解事業  
森の暮らしに根ざすザフィマニリの木彫り知識 (19)  
(マダガスカルは無形文化遺産)
- ・無形文化遺産理解セミナー  
「わざ」からみる、ふたつの無形文化遺産 (19)  
—マダガスカル・ザフィマニリの木彫知識を例に—
- ・コーナー展示  
木から生まれる芸術 (20)  
—マダガスカル・ザフィマニリの木彫り知識—
- ・ワークショップ  
マダガスカル・ザフィマニリの幾何学紋様を  
彫ってみましょう (20)
- 職員 (21)
- 博物館協議会委員 (21)
- 平成27年度入館者数 (21)
- 利用案内 (22)

# 展 示

## 特別展 堺復興—元禄の堺大絵図を読み解く—

平成27年10月27日（火）～12月13日（日）

慶長20（1615）年4月28日大坂夏の陣の前哨戦で豊臣方が放った火で、栄華を極めた中世都市堺は焼け野原になりました。そして幕府による堺の町割りは6月18日から始まります（金地院崇伝の『本光国師日記』）。堺が復興を遂げた姿は、元禄2（1689）年に堺奉行によって作られ、巨大な都市図として知られる「元禄二年堺大絵図」に見ることができます。近世都市に生まれ変わった堺は、栄華を極めた中世よりもひとまわり大きな都市になりました。

この特別展では、現在、国立歴史民俗博物館が所蔵する元禄の堺大絵図を堺で初めて借用・公開し、その姿を読み解きました。この絵図は江戸時代の堺の町を縮尺約300分の1で描いた巨大な地図です。あわせて大徳寺龍光院から新たに発見された寺院の復興工事資料等をもとに復興していった堺の歴史をご紹介します。

平成27（2015）年は、堺復興の起工から400年にあたりました。本展を通じて中世に比べて情報が少なく不明な部分が多かった近世都市堺の新しい魅力を感じていただきました。（矢内）

### 【展示構成と主な展示品】

- ・1615年 堺炎上と復興  
「堺環濠都市遺跡出土資料」（堺市文化財課蔵）  
「長谷川藤広黒印状」（当館蔵）
- ・復興していく都市・堺—復興は寺町から—  
「欠伸稿」（龍光院蔵）  
「大通庵御作事日記」（龍光院蔵）  
「鰐口」（顕本寺蔵）
- ・近世都市堺の誕生—絵画と文学—  
「日本永代蔵」・「世間胸算用」（大阪府立大学蔵）
- ・元禄の堺大絵図を読み解く  
—都市復興の視点から—  
「元禄堺大絵図」（国立歴史民俗博物館蔵）

関連行事として以下の催しを実施しました。

### A 記念講演会

日時：11月29日（日）午後2時～午後3時30分

演題：絵画資料から歴史をひもとく  
—洛中洛外図を中心に—

講師：国立歴史民俗博物館教授 小島道裕氏  
会場：博物館ホール

### B 学芸講座

日時：①11月22日（日）午後2時～3時30分

演題：中世都市から近世都市へ  
—堺環濠都市遺跡の発掘調査成果から—  
講師：当館学芸員 續伸一郎

日時：②12月6日（日）

演題：堺と京都—中近世の戦災復興—  
講師：当館学芸員 矢内一磨  
会場：博物館ホール

### C 展示品解説

日時：11月1日（日）・21日（土）  
共に午後2時～2時30分  
講師：当館学芸員

特別展 SAKAI'S RECONSTRUCTION Decipher the Large map Sakai drawn in 1689

元禄の堺大絵図を読み解く

堺復興

特別展 学芸員 矢内一磨

平成27年 10月27日（火）～12月13日（日）

堺市博物館 SAKAI CITY MUSEUM

百舌鳥・古市古堺群

企画展 更紗メイド・イン・ジャパン —異国趣味の染色デザイン—

平成27年4月25日（土）～5月24日（日）

木綿に鮮やかな文様が染め出されたインド更紗。大航海時代にもたらされた美しい異国の布は、日本人々の心を捉え、魅了しました。

江戸時代には日本でもインド更紗を模倣して多色染が行われました。当初は手描きでしたが、やがて型紙を使って量産されるようになり、江戸後期には日本製の型染の更紗、いわゆる「和更紗」が風呂敷や布団、間着（あいぎ）などに用いられて庶民の生活を彩りました。

堺でも更紗の模倣品が製作されていたようで、「堺更紗」という言葉が今に伝わっています。しかし、その製作の実態を記録した史料は見当たらず、堺更紗がどのような染めものであったのか、いつ頃どこで誰が作っていたのか等、詳細はわかっていません。堺更紗は、堺製の更紗というような厳密な意味を持つ言葉ではなく、異国的な文様を染めた和更紗の総称とも考えられます。

和更紗の異国的な文様には、インド更紗だけではなく、中国やヨーロッパなど、さまざまな異国のイメージが取り入れられています。舶来品に触発された和更紗のデザインからは、生活を楽しむ庶民の旺盛な活力が伝わってくるようです。

本展では、堺更紗について考える前提として、まずは和更紗の文様に表れた異国趣味に注目し、日本独特の更紗のおもしろさを見てみました。（宇野）

【関連行事】

◆講演会

日本オリジナルな更紗—江戸時代のファッション—

日時：4月26日（日）午後2時～3時30分

講師：熊谷博人氏（装幀家）

◆展示品解説

日時：5月17日（日）午後2時～2時30分

講師：当館学芸員

【主な展示品】\*名称・年代・所蔵

◆第1章 更紗の到来

南蛮屏風（重要美術品） 17世紀 当館蔵

世界図屏風（堺市指定有形文化財）  
17世紀 個人蔵

◆第2章 更紗メイド・イン・ジャパン

職人尽図屏風 18世紀 当館蔵

佐羅紗便覧 安永7年（1778）奥付 個人蔵  
町奉行所手鑑 元禄17年（1704） 妙國寺蔵  
励乃魁（界府繁栄家他国取引鑑）

安政2年（1855） 個人蔵  
更紗見本帳（山中権十郎編） 19世紀 個人蔵  
白茶地縞に小花文様更紗（「天保二」墨書）

19世紀 個人蔵  
藍地草花文様更紗（間着） 19世紀 個人蔵  
草花文様更紗（座布団） 19世紀 当館蔵  
唐花文様更紗（夜着） 19世紀 当館蔵  
大坂名所文様更紗（風呂敷） 19世紀 当館蔵

◆第3章 異国趣味のデザイン

天仙送子図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

天仙送子図（蘇州版画）  
清・18世紀 神戸市立博物館蔵

唐人物図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

赤地唐風景図更紗 19世紀 個人蔵

赤地港風景図更紗 19世紀 個人蔵

赤地鳳凰唐草祇園山鉾文様更紗  
19世紀 神戸市立博物館蔵

赤地花入り段更紗 19世紀 個人蔵

《展示品より》



唐人物図更紗（布団） 19世紀 当館蔵

企画展 昭和へタイムトリップ —吉田初三郎のパノラマ世界—

平成27年5月30日（土）～7月12日（日）

開館35周年を迎える堺市博物館は、優れた館藏品コレクションを収蔵します。パノラマの手法で近代の景観を描いた吉田初三郎のパノラマ地図のコレクションは、過去にも特別展で公開され多くの観覧者を魅了しました。

平成26年は吉田初三郎生誕130年、平成27年は没後60年にあたりました。昨年今年と各地で吉田初三郎のパノラマ地図展が開催されていました。当館においても館蔵コレクションを新しい角度から見ることによって、企画展を開催いたしました。

昭和へタイムトリップをするという視点で今回は、企画・開催しました。昭和の景観を独特の手法で描いた吉田初三郎のパノラマ世界は、昭和世代には懐かしく、平成生まれに新鮮に映ります。不思議で懐かしい地図の世界をお楽しみいただきました。また、描かれた町には台風や大火からたくましく復興をしつつある途上の様子を記録したのものもあります、21世紀に生きるわれわれへのメッセージとして捉え展示しました。（矢内）

【主な展示作品】（いずれも当館蔵）

- 富士身延鉄道沿線名所鳥瞰図 原画  
昭和3（1928）年 1枚
- 筑波山神社を中心とせる名所図絵 原画  
昭和時代初期 1枚
- 丹那トンネル開通之熱海鳥瞰図 原画  
昭和9（1934）年 1枚
- 全国名所鳥瞰図展覧会ポスター 原画  
昭和8（1933）年 1枚
- 神武天皇御聖蹟図 原画 昭和14（1939）年 1枚
- 料亭水月を中心とせる日田案内図 原画  
昭和時代初期 1枚
- 堺市鳥瞰図 原画 昭和10（1935）年 1枚
- 函館市図 原画 昭和11（1936）年 1枚
- 新潟全県史跡観光鳥瞰図 原画  
昭和時代戦後 1枚
- 大軌・参急電鉄ポスター 印刷  
昭和9（1934）年 1枚
- 稚内市鳥瞰図 原画 昭和時代戦後 1枚
- 遠軽町鳥瞰図 原画 昭和時代戦後 1枚
- 国立公園支笏洞爺湖 原画 昭和時代戦後 1枚

- 国立公園大雪山 原画 昭和時代戦後 1枚
- 国立公園阿寒 原画 昭和時代戦後 1枚
- 装幀原画 昭和時代 10枚1括
- 釜石市街鳥瞰図 印刷 昭和11（1936）年 1枚
- 宮城県観光案内書 印刷 昭和時代 18枚1括
- 愛知県観光案内書 印刷 昭和4（1929）年 6枚1括

関連行事として以下の催しを実施しました。

【関連行事】（いずれも当館学芸員による）

◆展示品解説

日時：5月31日（日）午後2時～2時30分  
会場：企画展会場

◆学芸講座

日時：6月28日（日）午後2時～3時30分  
会場：博物館ホール・企画展会場



会場風景

## 企画展 むかしの夏、堺の夏

平成27年7月18日(土)～8月30日(日)

前期：7月18日(土)～8月9日(日) / 後期：8月11日(火)～8月30日(日)

本展は小中学生を主な対象とし、父母や祖父母の世代とむかしのことについて語り合えるきっかけとなるよう、堺のむかしの夏に関する資料(住吉祭礼図屏風、堺の寺に伝わった仏画、太平洋戦争関係資料等)を展示するとともに、関連行事を行うことを目的として開催しました。

堺の夏の一大行事、住吉祭は何百年も続いており、江戸時代には住吉祭を描いた屏風が制作されました。むかしも大いに盛り上がったお祭りのようすが屏風の絵からわかります。

夏といえばお盆休み。お盆には、堺だけではなく日本各地のお寺で先祖の霊がおまつりされます。本展では、「閻魔王図」(堺市・長泉寺蔵、重要文化財、前期に展示)や「阿弥陀三尊来迎図」(堺市・専称寺蔵、大阪府指定文化財、後期に展示)など、堺のお寺に伝わった仏画を展示し、仏さまの教えを描いた絵から、むかしの人たちが考えた死後の世界の様子を想像してみました。

平成27年は、太平洋戦争が終わってから70年目の節目の年でした。昭和20年7月10日、大空襲を受けて堺の町は焼け、そのおよそ一か月後、8月15日に戦争は終わりました。戦争の終結に重要な役割を果たしたのが、堺出身の当時の首相・鈴木貫太郎(1868～1948)でした。戦時中の堺の町を描いたスケッチ、当時の堺の小学生による図画・習字・作文、鈴木貫太郎ゆかりの資料等を展示し、戦争について考えてみました。(宇野)

### 【関連行事】

#### ◆講談会

納涼! 講談会

～子どもも大人も笑って、ちょっとゾクッ!

日時：8月2日(日)午後4時～5時(開場：午後3時)

※抹茶体験(有料)・蚊帳体験あり

演題：「千利休と戦国大名のお茶」

「怪談・野良猫の恩返し」

出演：講談師 旭堂南海氏

会場：堺市茶室 伸庵

対象：小中学生(要保護者同伴)

#### ◆講演会

昭和20年の夏・8月15日ー終戦と鈴木貫太郎ー

日時：8月15日(土)午後2時～3時30分

講師：白神典之(当館学芸課長)

#### ◆展示品解説

日時：8月22日(土)午後2時～2時30分

講師：当館学芸員

### 【主な展示品】\*名称・年代・所蔵

#### ◆住吉祭

住吉祭礼・賀茂競馬図屏風 17世紀 当館蔵

住吉祭礼図屏風 18世紀 当館蔵

住吉名勝図会 寛政6年(1794)刊 当館蔵

#### ◆お盆と「あの世」

十三仏図 15世紀 圓龍寺蔵

星曼荼羅図(大阪府指定文化財)

14世紀 高倉寺宝積院蔵

閻魔王図(重要文化財) 14世紀 長泉寺蔵

阿弥陀三尊来迎図(大阪府指定文化財)

14世紀 専称寺蔵

#### ◆戦争の記憶

岸谷勢蔵画 堺市第一次疎開地区記録

昭和19年(1944)7月 当館蔵

岸谷勢蔵画 昭和二十年七月十日戦災の図

昭和20年(1945)7月11日 当館蔵

鈴木貫太郎述『終戦の表情』(労働文化社)

昭和21年(1946)8月1日刊 個人蔵

鈴木貫太郎筆「為萬世開太平」

昭和20年(1945)以降 個人蔵

堺の小学生の図画・習字・作文

昭和16～20年(1941～45)

堺市立平和と人権資料館蔵



「堺の小学生の図画・習字」展示風景



## 企画展 “イタスケ古墳を護ろう”—破壊から保存、そして世界文化遺産へ—

平成27年9月5日（土）～10月18日（日）

いたすけ古墳は、昭和30年（1955）11月14日に史跡に仮指定され、翌31年（1956）5月15日付で国史跡になりました。そして、平成27年はいたすけ古墳の保存運動から60年という節目の年にあたります。

第2次大戦後の混乱・荒廃した時代に「戦後復興」という大号令のもとに、開発行為により多くの遺跡や古墳が破壊されました。百舌鳥古墳群内でも七観山古墳、カトンボ山古墳、大塚山古墳、城ノ山古墳など多くの古墳が破壊され、地上から姿を消しました。なお、一部の古墳に関しては、森浩一氏や宮川徂氏などにより献身的な発掘調査が行われ、かろうじて記録と出土品が残されましたが、古墳の多くは記録も残されないままに破壊されました。

いたすけ古墳も住宅地開発のため、昭和30年（1955）9月ごろには周濠に架橋されました。これを知った森浩一氏や宮川徂氏などの考古学研究者などを中心として“イタスケ古墳を護ろう！”をスローガンに古墳を開発・破壊から守ろうと立ち上がりました。そして、それは大きなうねりとなり全国へ広がりました。その運動は新聞社などマスコミも大々的に取り上げ、その結果堺市が古墳と橋を開発会社より買い取り、11月14日には国指定史跡として仮指定され保存されることになりました。

当時は「保存運動」という言葉すらなく、現代の文化財保護活動につながる先駆的運動として高く評価され、また後の市民活動にも大きな影響を与えました。そして、これを契機として「古墳は護るべきものである」という意識が広まりました。

現在、大阪府・堺市・羽曳野市・藤井寺市は「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録をめざしており、平成22年（2010）には世界遺産暫定一覧表に記載されました。この「いたすけ古墳」保存運動は、世界文化遺産登録へとつながる出発点であると言えるのではないのでしょうか。

今回の展示では、①百舌鳥古墳群中で破壊された古墳の資料、②いたすけ古墳の保存運動に関する資料を中心として構成し、③百舌鳥古墳群の保存・加えて世界文化遺産登録の活動を紹介しました。なかでも、現在いたすけ古墳周濠の水質浄化に積極的に取り組んでいる大阪府立堺工科高校エコデザイン部による活動を紹介し、新たな保存活動が現在でも行われていることを示しました。

今回の展示主題であるいたすけ古墳の保存運動の展示をきっかけにして、「百舌鳥古墳群を守り、伝える」意義を伝えることができたと思います。（續）

\*古墳の表記に関しては、史跡指定前は「イタスケ古墳」とカタカナ表記されることが多く、史跡指定後は「いたすけ古墳」に統一されました。60年前の雰囲気伝えるために、タイトルをカタカナ表記のものとししました。

### 【主な展示品】

#### ◆個人所蔵品（30点）

「堺市いたすけ古墳を護る会」チラシ・いたすけ古墳関係新聞記事スクラックブック・七観山古墳出土埴輪など



いたすけ古墳保存運動関係スクラックブック（個人蔵）

#### ◆七観山古墳出土品（京都大学総合博物館12点）

革製衝角付冑（三尾鉄含）・馬具（木心鉄板張輪・馬具（三環輪）・鉄鏃・鉄槍・形象埴輪（盾形、家形、鞍形、草摺形）・鱗付円筒埴輪

#### ◆城ノ山古墳出土品

（同志社大学歴史資料館19点・堺市博物館8件）  
鉄鏃・鉄鉾・支刀付鉾・鉄剣・馬具（鞍）・刀子・帯金具垂れ飾り・勾玉・管玉・ガラス棒・挂甲・鏡片など

#### ◆カトンボ山古墳出土品（当館6点）

子持勾玉・勾玉・滑石製白玉・鍛造鉄斧など

#### ◆いたすけ古墳出土品（堺市文化財課1点）

衝角付冑型埴輪（堺市指定有形文化財）

### 【関連行事】

#### ◆講演会（2回開催）

①日時：9月12日（土）午後2時～4時  
「いたすけ古墳周濠の浄化への取り組み」  
大阪府立堺工科高校エコデザイン部  
「いたすけ古墳を護った市民のこころ—保存運動から60年—」

宮川徂氏（奈良県立橿原考古学研究所客員研究員）

②日時：10月4日（日）午後2時～3時30分  
「いたすけ古墳の保存運動とその後の古墳研究」  
新納泉氏（岡山大学大学院教授）

#### ◆学芸講座（展示品解説含む）

日時：10月2日（金）午後2時～3時30分

#### ◆展示品解説

日時：9月6日（日）午後2時～2時30分

## 企画展 むかしの暮らし —ふしぎな道具の数々—

平成28年1月9日（土）～3月6日（日）

私たちは、朝起きてから夜眠るまでいろいろな道具を使って生活しています。そのような普段の暮らしを便利で豊かなものにするために、道具はどんどん進歩してきました。時の流れとともにずいぶん変わり、姿を消したのも数多くあります。

本展は、従来スポット展示「クイズ!?むかしの道具」として開催してきたものを企画展としてリニューアルしたもので、20世紀を中心とする時代に使われていた道具の数々をご覧いただきました。これらの道具のなかには、最近まで使っていたものや、懐かしいもの、どんな時に使うかわからなくなってきたものなど、いろいろあります。そこから、昔の人の工夫や知恵、道具が進歩して便利になっていく様子、道具がもたらした生活の移り変わりなど、暮らしの上での道具の大切さも学んでいただきました。

なお、開催期間中には関連学校関係行事として、企画展コーナーに昔の道具体験コーナーを、地階博物館ホールには昔の遊び体験コーナー等を設置し、市内の小学校3年生の団体見学を対象に、昔の道具体験会（平成28年1月26日（火）～3月4日（金）の火曜日から金曜日の平日限定）を開催し、石臼の体験、むかしの遊びなどを学習していただき、総数で43校の参加がありました。（倉橋）

### 【章立てと主要展示品リスト】

- A、衣類にかかわる道具  
トンビ、さしこ、他
  - B、余暇にかかわる道具  
蓄音機、テープレコーダー、他
  - C、仕事にかかわる道具  
龍吐水、銭箱、他
  - D、住居にかかわる道具  
炭火アイロン、足踏みミシン、他
  - E、食事にかかわる道具  
七輪、箱膳、他
  - F、農業に使う農具  
足踏み脱穀機、唐箕、他
- 以上、約70点

### 【関連事業】

#### ◆展示品解説

日時：2月6日（土）午後2時～2時30分

会場：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員



蓄音機

「発明王」エジソンが作った音を録音する筒型の道具を、のちにエミール・ベルリナーという人がレコード盤という円盤に改めて広がった音楽を聴くための道具です。現在のICプレーヤーのご先祖様ですが、電気・電池は使わず、ゼンマイなどで動かしました。



手回し式計算機

機械式計算機ともいい、歯車などの機械要素の組み合わせで、加減乗除の演算を行うことができます。19世紀後半に商品化されて普及し、20世紀後半頃まで盛んに用いられましたが、コンピューターと電子卓上計算機の登場で、すたれていきました。

日本では、大正時代に大本寅治郎が開発した「タイガー計算機」が日本における手回し式計算機の代名詞となり、1968年頃に生産・出荷のピークを迎えましたが、1970年前後から一気に生産・出荷の規模が落ちていき、コンピューターや電子卓上計算機にとってかわられました。

## 企画展 和田一族奮戦記—中世を生き抜いた人々—

平成28年3月12日（土）～5月29日（日）

本展では、和泉国大鳥郡和田（みきた）庄を本拠地にした武士・和田（みきた）氏に伝来した「和田文書」（個人蔵、京都府立山城郷土資料館寄託）をもとに、和田氏の活躍した中世の和泉・南河内地域の姿を紹介しました。

和田文書は、鎌倉時代から戦国時代にかけて堺の有力な武士であった和田氏の活躍を今日に伝えています。本展では、和田庄をはじめとして、和田氏が勢力範囲とした地域の南北朝期から戦国期にかけての様子を中心にご紹介しました。

和田氏は南北朝時代、楠木氏と深いかかわりを持ち、南朝方としてこの地域で活躍していました。和田文書は、南北朝時代の堺市域の動向を見るうえでもたいへん貴重な資料です。着到状や手負注文をはじめとするこの時期の書状類は、この時期の和泉国内での戦闘の様子を具体的に教えてくれます。

南北朝時代と並んで、この地域の動向について詳しい材料を提供してくれるのが、戦国時代の和泉守護細川氏から発給された書状類です。応仁元（1467）年に始まった応仁・文明の乱は、京都での戦闘が終結したのちも、戦乱が畿内各地に波及していきました。和田氏は、和泉守護細川氏のもとで幾多の戦闘に参加しています。

このほか本展では、鎌倉時代の「沙弥性蓮処分状」など、和田庄の景観や池などの地名がわかる資料をもとに、現在残っているため池などの地名やその位置についても調査しました。調査にあたっては、美木多地域歴史資料調査会の皆様のご協力をいただき、その結果は、写真パネルや昭和36（1961）年の地図を用いてご紹介しました。

なお、本展終了後、和田文書はからあらたに当館へ寄託先を変更いただくこととなりました。本文書の詳細については、本号掲載の「新たに寄託された古文書について—史料紹介 和泉国大鳥郡和田文書（一）—」をごらんください。（渋谷）

### 【関連行事】

#### ◆展示品解説

日時：3月19日（土）・5月15日（日）

午後2時～2時30分

会場：企画展会場

講師：当館学芸員

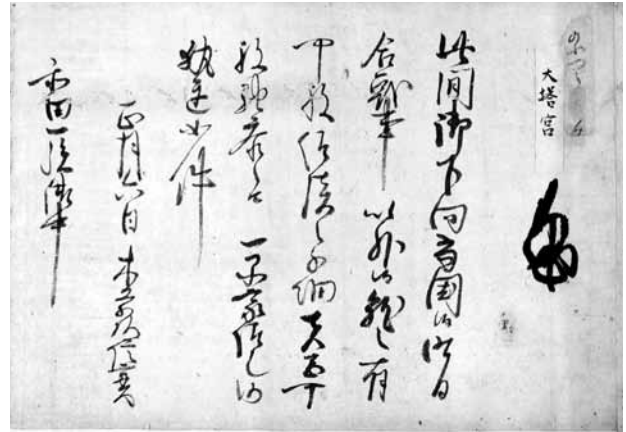
#### ◆学芸講座

日時：4月24日（日）午後2時～3時30分

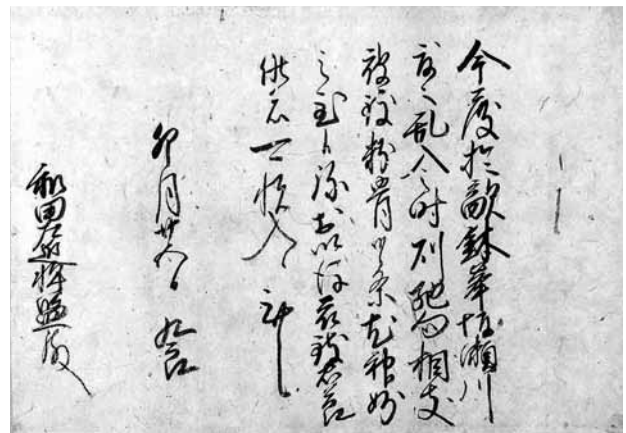
会場：博物館ホール・企画展会場

講師：当館学芸員

#### 《展示品より》



「北畠親房袖判御教書」 正平3（1348）年正月6日



「細川九郎感状」 応仁3（1469）年4月25日



会場風景

## 長山古墳・ニサンザイ古墳発掘調査速報展 平成28年3月12日(土)～5月29日(日)

平成24～26年度に堺市文化財課が実施した発掘調査で出土した埴輪などを古代常設展示コーナーで展示しました。

主催／文化財課

### 【主な展示品】

- ・長山古墳—車輪石・円筒埴輪・形象埴輪など
- ・ニサンザイ古墳—円筒埴輪・朝顔形埴輪

### 【関連事業】

- ・報告会(博物館連続講座)文化財課職員
- ①4月29日(水・祝)午後2時～3時30分  
「長山古墳の調査成果について」
- ②5月6日(水・祝)午後2時～3時30分  
「ニサンザイ古墳の調査成果について」

世界文化遺産登録をめざしている百舌鳥古墳群に関連する展示資料の充実化を図るために、宮内庁書陵部のご理解、ご協力により百舌鳥陵墓参考地(御廟山古墳)の墳丘から出土した埴輪(円筒埴輪2点・朝顔形埴輪1点・蓋形埴輪1点)を借用しました。今後も資料を充実させていきたいと考えています。(續)



## 常設展示リニューアル

平成27年度には、前年度に行った古代コーナーのリニューアルに引き続き、中世コーナーの小規模なりニューアルを以下の①②のとおり行った。

### ①バナーの新設

平成14年度に行われた常設展示リニューアル(順路変更)によって、古代コーナーの展示物の背景に、江戸時代の復元町屋の裏側が見える、という状況が生じてしまい、時代順の展示の流れに違和感のあるまま現在に至っている。その対策として町屋の裏側を隠すためのバナー4枚を設置した。バナーには古代・中世・近世・近現代の各時代を代表する堺の文化財をプリントし、堺に長い歴史があり、その中で生まれた数々の文化財が現存することを視覚的に理解してもらえるようにした。

### ②大阪府指定有形文化財「慶長大火縄銃」の展示方法の変更

変更前は、壁面ケースに他のさまざまな資料とともに展示していたが、専用の展示ケースを新設し、展示場の中央に単独で展示しなおした。変更前は、日本一の長さ(3メートル)がそれほど目立たなかったが、変更後はより強いインパクトを鑑賞者に与えるようになり、大火縄銃の製作に携わった堺の鉄砲鍛冶の技術力についての関心も深まったように見受けられる。(宇野)



# みはら歴史博物館 展示

## 特別展

「河内鋳物師の誇りⅡ  
—梵鐘づくりの名人たち—  
平成27年11月1日(日)～平成28年1月31日(日)

鎌倉時代を中心に河内国丹南郡・八上郡を拠点とした河内鋳物師は、12～13世紀の梵鐘の約60%を製作したことが、各地に残された梵鐘の銘文や文書などからわかっています。当時の日本における河内鋳物師の鋳造技術の高さが窺えます。

昭和58年(1983)、真福寺遺跡(堺市美原区黒山、真福寺)で13世紀後半の大型金属製品(梵鐘あるいは湯船)を鋳造した工房跡と鋳型など鋳造の道具類が発見されました。これまで文書や梵鐘の銘文でしかたどることができなかった河内鋳物師の姿を明らかにする重要な発見でした。この鋳造遺構のひとつは、みはら歴史博物館の常設展示室地下に移築保存され、河内鋳物師を語る上で代表的な展示資料となっています。

本展では、真福寺遺跡と畿内の梵鐘鋳造遺跡の遺構や出土遺物、民俗資料を展観し、現代に受け継ぐ伝統的な鋳造技術とあわせて、河内鋳物師と梵鐘の鋳造について観ていただこうと企画しました。

当館では、主に美原区の歴史・文化に焦点をあてた展示を開催してきており、昨年度の「河内鋳物師の誇り—鍋・釜づくりの名人たち—」を皮切りに、地域で長く顕彰されてきた“河内鋳物師”を、“河内鋳物師の誇り”シリーズとして展開しています。本展は2回目、梵鐘を造った鋳物師に焦点をあてました。これらの展示によって、“河内鋳物師”が地域の貴重な歴史遺産として後世に引き継がれ、またシビックプライドの醸成につながることを願います。(柿沼)

### 【主な展示品】

- ◆河内鋳物師の鋳造工房「真福寺遺跡」
  - ・梵鐘または湯釜の鋳型、・溶解炉片  
13世紀(公財)大阪府文化財センター蔵
- ◆梵鐘の鋳造遺跡をめぐって
  - 鍛冶屋敷遺跡(滋賀県甲賀市信楽町)
    - ・「二竈領」墨書須恵器杯蓋、炉壁、梵鐘の鋳型(滋賀県指定有形文化財)  
8世紀中頃 滋賀県立安土城博物館蔵

- 徳大寺遺跡(箕面市粟生間谷東・茨木市宿久庄)
  - ・梵鐘の鋳型  
10世紀後半(公財)大阪府文化財センター蔵
- 白水遺跡(神戸市西区伊川谷町)
  - ・梵鐘の鋳型、溶解炉(部分)  
11世紀前半 神戸市教育委員会蔵

- ◆引き継がれた梵鐘づくりの技術(民俗資料)
  - 西澤梵鐘鋳造所(東近江市五個荘三俣町)
    - ・梵鐘の埋型、木製埋型原型、半鐘、鰐口
  - 旧田中家鋳物工場(枚方市藤阪天神町)
    - ・梵鐘の挽型、木製埋型原型(枚方市指定有形文化財)、埋型  
江戸～明治時代 枚方市教育委員会蔵

### 【関連行事】

- ・講演会  
日時：11月14日(土) 午後2時～4時  
演題：「梵鐘の製作技術から見た河内鋳物師たち」  
講師：五十川伸矢氏(京都橋大学 教授)  
会場：博物館附属ホール
- ・鐘撞き体験「平成の梵鐘を鳴らしてみよう！」  
日時：11月14日(土) 午後4時30分～5時30分  
会場：博物館入り口前鐘楼
- ・DVD上映会  
「今に伝わる日本の鋳造技術(みんなく映像民族誌第12集)」  
日時：11月14日(土) 午前10時30分～12時  
11月15日(日) 午前10時30分～12時  
午後1時30分～3時  
会場：博物館附属ホール
- ・学芸員による展示解説  
11月21日(土)、12月5日(土) 午後2時～2時30分



## さかい利晶の杜 展示

平成27年3月20日に開館したさかい利晶の杜(堺市立歴史文化にぎわいプラザ)の展示事業を紹介します。

### 企画展

#### まちを掘る—発掘40年と茶道具逸品の数々

9月11日(金)～10月18日(日)

中近世の堺のまちは、国際貿易港として繁栄を遂げ、その中心にいた富裕な商人たちによって茶の湯文化が育まれました。当時のまちは、大坂夏の陣の前哨戦によって灰燼に帰しましたが、現在も地下に眠っており、堺環濠都市遺跡(略称SKT)として発掘調査が進んでいます。ちょうど昨年で調査開始以来40年を迎えました。その調査成果から、武野紹鷗、千利休などの優れた茶人を生んだ、堺の茶の湯文化の一端に触れられるような茶道具を中心に紹介しました。(小松原)

#### 【関連行事】

##### ◆講演会

日時：10月4日(日) 午後2時～3時30分

演題：「茶の湯と考古学」

講師：降矢哲男氏(京都国立博物館研究員)



### 企画展

#### 与謝野晶子—その限りなき挑戦の生涯—

10月30日(金)～12月13日(日)

本展は、晶子が常に新しい世界に挑戦し続けたその生き方と幅広い活動を、自筆資料や著書、遺品など、堺市博物館所蔵資料を中心に約100点を展示し紹介するものでした。

展示構成は、歌人、評論家・教育者、古典研究者と、晶子の業績を3つに分けました。

また、新たに与謝野家から見つかった晶子の最晩年に詠まれた歌稿ノートも合わせて紹介しました。このノートには、亡くなる3か月前の雑誌『冬柏』に発表した歌や、晶子の絶筆と思われる歌掛軸「連峯之雲」の

歌も含まれ、その推敲の様子がうかがえます。(森下)

#### 【関連行事】

##### ◆講演会①

日時：11月8日(日) 午後2時～3時30分

演題：「よさのひろしと詩人森鷗外～

『巴里より』『リラの花』101年」

講師：上田博氏(立命館大学名誉教授)

##### ◆講演会②

日時：11月22日(日) 午後2時～3時30分

演題：「『天がけりゆく』晶子パリへ」

講師：ジャニーン・バイチマン氏

(大東文化大学名誉教授)



### パネル展

#### 作品パネルでたどる歌人と謝野晶子の生涯

5月29日(金)～8月30日(日)

本展では、与謝野晶子についてその生涯や詩歌、関連の展示・研究施設などを紹介しました。(森下)

### パネル展

#### 関西茶の湯ミュージアムパネル展

6月19日(金)～8月30日(日)

関西にある茶の湯に関連する施設(美術館・博物館ほか、計31館)について、パネルで紹介しました。(伊住)

#### 【関連行事】

##### ◆講演会①

日時：7月28日(火) 午後2時～3時30分

演題：「近代数寄者と美術館」

講師：谷晃氏(野村美術館館長)

##### ◆講演会②

日時：8月22日(土) 午後2時～3時30分

演題：「さかい待庵と無一庵」

講師：中村利則氏(京都造形芸術大学教授)

# 資料

## 新収蔵資料

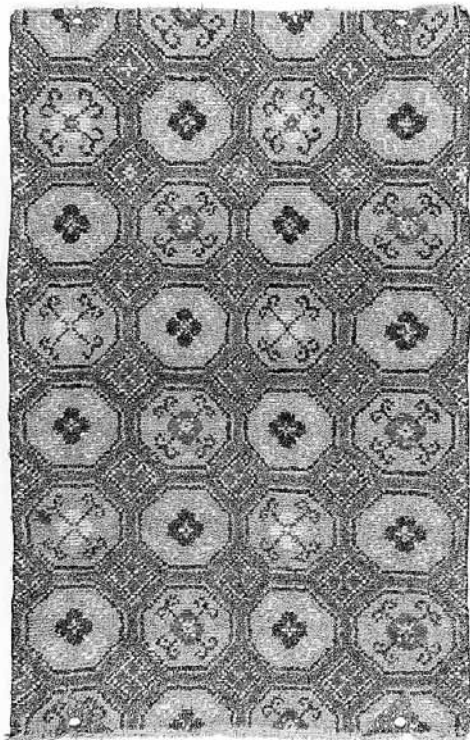
平成27年度に寄贈あるいは寄託を受けた資料は以下のとおりです。（◆はさかい利品の杜にて管理分）

### 購入

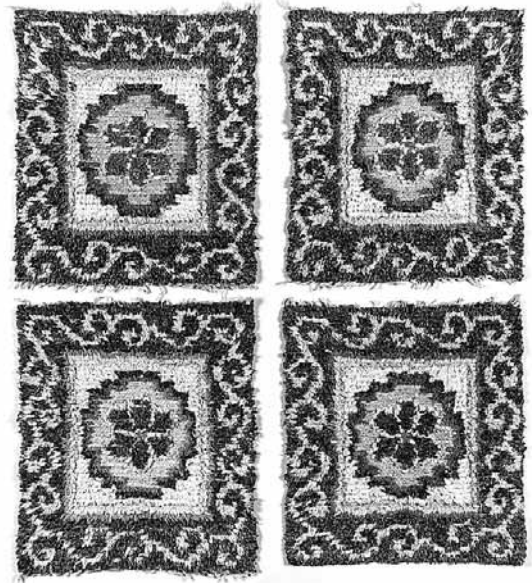
- ・長谷川藤広黒印状 1幅
- ・堺緞通（松代真田家伝来） 1点
- ・堺緞通（筑前・染と織の美術館コレクション） 13件16点
- ・与謝野晶子・寛自筆歌百首小屏風（不思議より） 1点◆
- ・駿河屋鳳久夫筆・菅沼宗四郎宛葉書ほか 21点◆
- ・堺浦真図 長谷川雪真筆 1点◆



長谷川藤広黒印状 1幅



堺緞通（松代真田家伝来）



堺緞通（筑前・染と織の美術館コレクション）

### 寄贈

- ・辻林峯太郎作手織緞通 1点
- ・与謝野晶子歌自筆短冊（灯をおけば）ほか 30点◆
- ・与謝野晶子書簡 荒川誠一宛ほか 2点◆

### 寄託 \*は新規寄託、その他は更新

- ・大阪府指定 開口神社文書 第8巻他 計86件
- ・国役免状他 計12点
- ・日根対山「柳塘山水図（海屋賛）」他 計30件
- ・人物埴輪 1点
- ・大塚山古墳出土品 46点 他計3件
- ・菊桐紋散衣装箱（高台寺伝来）他計29件
- ・方違宮縁起等 計4件
- ・滑石製勾玉（土師遺跡出土）1点
- ・重要文化財 脇差 他25件
- ・阿弥陀三尊来迎図 他計3件
- ・十三仏図 1点
- ・岸谷勢蔵筆「晶子生家」他 計10件\*◆
- ・管打銃 他計8点\*
- ・文禄三年八月「和田谷検地帳」 他計2件
- ・永和元年七月八日紛失状 他計11件\*
- ・堺緞通 8件11点\*
- ・西類子由緒書 1点
- ・文禄三年堺之内九間町御検地之御帳 他計9件

## 保存修理

平成27年度は、以下の所蔵資料について保存修理を行いました。

### 重要文化財 漆塗太鼓形酒筒

経年劣化により内部の漆塗膜が亀裂し剥離していたり、過去の虫損箇所が欠損していたりしていました。本資料は重要文化財であるため、文化庁の指導のもと保存修理経費の国庫補助を受け、奈良国立博物館文化財保存修理所漆工室にて修理を行いました。



重要文化財 漆塗太鼓形酒筒 (修理後)

## 館外貸出

平成27年度に当館収蔵資料(所蔵資料・寄託資料)の貸出を許可した12件について、貸出先(会場)／展覧会名／資料名を記載しました。

☆印は寄託資料。

1. 新潟県立歴史博物館／新潟・兵庫連携企画展「北前船」／「摂津国名所港津図屏風」六曲一双
2. 大阪歴史博物館・千葉市美術館／特別展「唐画もん」／林閔苑「孔子十哲図」、同「花鳥

図」、同「蹊橋飛瀑図」☆

3. 石川県輪島漆芸美術館／企画展「重要無形文化財<輪島塗>の世界」／足付盥2点
4. 滋賀県立安土城考古博物館／秋季特別展「倭五王海を渡る」／「仁徳天皇陵大仙陵石槨の中ヨリ出シ甲冑之図(複製)」4点
5. MIHO MUSEUM／春季特別展「かざり一信仰と祭りのエネルギー」／「洛中洛外図屏風」六曲一双、「月次風俗諸職図屏風」六曲一双
6. 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館／秋季特別展「人のかたちの埴輪はなぜ創られたのか」／仁徳陵古墳巫女形埴輪レプリカ1点
7. 静岡市立登呂博物館／特別展「登呂のいす展」／百舌鳥大塚山古墳出土ミニチュア土製品9点☆
8. おいでよ堺21実行委員会(大安寺本堂)／秋季堺文化財特別公開／軒平瓦1点、丸瓦1点(ともに大安寺旧蔵)
9. 神戸市立博物館／特別展「須磨の歴史と文化」／土佐光起筆「須磨・宇治図屏風」六曲一双、土佐光吉筆「源氏物語図色紙(須磨)」1面
10. 町家歴史館山口家住宅／「辻林峯太郎と堺緞通展」／辻林峯太郎作「鳳凰に鶴円文手織緞通」1点
11. 泉屋博古館・根津美術館／特別展「高麗仏画一香りたつ装飾美一」／「阿弥陀三尊像」一幅☆
12. 京都国立博物館／「禅一心をかたちに一」展／沢庵宗彭墨跡法語「夢」一幅☆

## 特別利用

特別利用は堺市博物館条例第4条に基づき、資料の熟覧、模写、模造、撮影(原板貸出を含む)等の申請に対して許可を行っています。平成27年度の利用申請は147件でした。



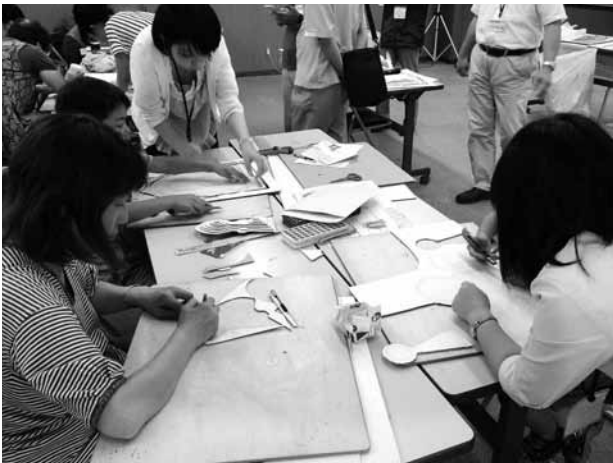
## 普及 (平成27年4月～平成28年3月)

### 体験学習会

- ・ 子どもの日 クイズ大会  
5月5日 (火・祝) 50名/定員50名
- ・ 百舌鳥古墳群 君ならどう見る?  
7月23日 (木) 9名/定員10名  
7月30日 (木) 10名/定員10名
- ・ 博物館で体験しよう!  
8月5日 (水) 58名/定員50名  
8月19日 (水) 43名/定員50名



- ・ ダンボールで仁徳天皇陵古墳をつくろう  
8月8日 (土) 24名/定員20組40名



- ・ 勾玉をつくろう  
8月16日 (日)  
午前・午後15名・16名/定員各10組20名
- 古墳時代シリーズ
- ・ 古墳時代のアクセサリ、色つき勾玉をつくろう  
9月26日 (土) 午前・午後15名・14名/定員各20名
- ・ 古墳時代の服を着てみよう  
10月17日 (土) 53名/定員50名
- 古墳時代シリーズ

- ・ 百舌鳥古墳群探検ツアー&万華鏡づくり  
10月24日 (土) 古墳見学のみ0名/定員10名  
古墳見学と万華鏡づくり14組/定員15組
- 古墳時代シリーズ
- ・ おりがみや草木で古墳やはにわをつくろう  
11月15日 (日) 33名/定員50名
- 古墳時代シリーズ
- ・ 琥珀の勾玉をつくろう  
12月19日 (土) 午前・午後11名・10名/定員各10名
- ・ 昔の道具・あそび体験会①  
1月31日 (日) 75名/定員50名
- ・ 昔の道具・あそび体験会②  
2月13日 (土) 30名/定員50名
- ・ 昔の道具・あそび体験会③  
3月6日 (日) 36名/定員50名



### 館外でのワークショップ

- 3月25日 (金) 弥生フェスタ  
(於:大阪府立弥生文化博物館)  
古墳壁掛けをつくろう 108名

### 博物館コンサート2015

- ① フレンチサクソフォンコンサート  
7月18日 (土) 128名  
出演: 埴美里、谿博子 (ピアノ伴奏)  
ジャンル: サクソフォンによるクラシック演奏
- ② トーク&アンサンブルで楽しむ名曲ミュージアム  
9月13日 (日) 157名  
出演: Simple Gifts  
ジャンル: 女声声楽アンサンブル
- ③ Musik Blomster vol.2  
～音楽の花々～

フルート&ピアノデュオコンサート

10月18日(日) 154名

出演：前田みさと(フルート)、黒木舞(ピアノ)

ジャンル：フルートとピアノによるアンサンブル

④競演×響宴 堺を思う鼓音は、きっとあなたに届く。

11月14日(土) 160名

出演：大阪狭山桜太鼓・堺御陵太鼓

ジャンル：和太鼓・お囃子

⑤本庄智史ピアノコンサート

～パ리에吹く異国の風～

11月28日(土) 135名

出演：本庄智史

ジャンル：クラシックピアノソロ

⑥ソプラノとピアノで贈る Christmas concert

12月20日(日) 160名

出演：中野亜維里(ソプラノ)、

青山瑠美子(ピアノ)

ジャンル：声楽とピアノによるアンサンブル

⑦新春名曲ミュージアム

1月16日(日) 150名

出演：サウンド・オブ・ピース

ジャンル：管弦アンサンブル

⑧フルートとピアノで語る音楽物語～

ラブストーリー

2月11日(木・祝) 170名

出演：大城梨花(フルート)、大城杏花(ピアノ)

ジャンル：フルートとピアノによるアンサンブル

⑨桑原怜子ピアノコンサート

3月5日(土) 150名

出演：桑原怜子

ジャンル：クラシックピアノソロ

⑩角山榮元堺市博物館長追悼コンサート

3月27日(日) 190名

出演：西野久美子(ピアノ)、藤原士郎(チェロ)

ジャンル：ピアノとチェロによるアンサンブル

ワークショップで検討されたアイデアをもとに創り上げられました。子どもたちの自由な発想により演出された新しい博物館の楽しみ方を体感いただきました。

会場では、「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産登録の寄付を募り、皆様からお寄せいただきました募金の総額は、177,635円に上りました。お預かりした募金は、堺市世界文化遺産登録推進基金に全額寄付いたしました。



【開催概要】

①館前庭：3Dプロジェクションマッピング  
(約5分間)

上映予定時間：午後7時45分／午後8時5分／午後8時20分／午後8時35分／午後8時50分

※日没時間を考慮し上映環境向上のため、6月5日(金)からは上映予定時間を変更。

②館内：デジタルアートコンテンツ  
(午後7時から午後9時)

◆Hanny Face Photo…

植輪に自分の顔が“ハニワ化”され映し出されます。

◆Pop up Exhibition…

資料をかざすと壁に古墳群の立体的な絵が飛び出て、目の前に現れ動き出します。

◆Secret Stairs…

センサーが感知すると床がボコボコと開き、秘密の階段が現れます。

SAKAI NIGHT MUSEUM  
(サカイ ナイト ミュージアム)

5月22日(金)から6月21日(日)の金、土、日の15日間開催

総観覧者数 21,129名

堺市出身のアーティスト村松亮太郎さんが手がけた3Dプロジェクションマッピングを堺市博物館の正面外壁を使って上映しました。

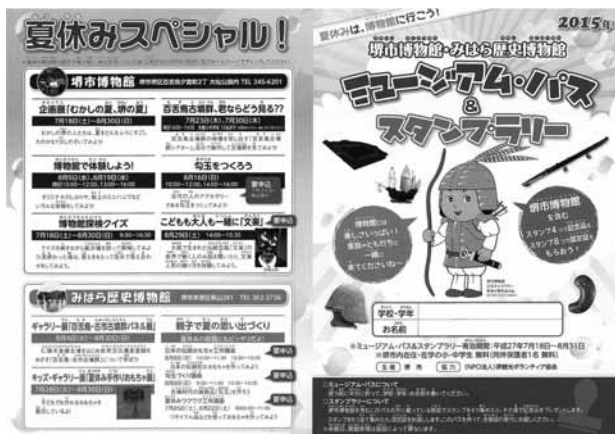
作品は、堺市立堺高等学校の生徒さんたちと

2015ミュージアム・パス&スタンプラリー

夏休み期間に当館やみはら歴史博物館では、「夏休みスペシャルプログラム」として、小・中学生が楽しめる様々な催しの実施内容を掲載した「ミュージアム・パス」を作成し、堺市内の小・中学校や当館、みはら歴史博物館で堺市在住・在学の小・中学生全員に配布しました。

なお、本パス持参で堺の歴史や文化を学べる8施

設（当館・みはら歴史博物館・町家歴史館山口家住宅・町家歴史館清学院・泉北すえむら資料館、さかい利晶の杜、堺アルフォンス・ミュシャ館、堺伝統産業会館）に保護者1名とともに何回でも無料入館できて、当館を含む合計4施設のスタンプを集めるとその場で記念品、全8施設のスタンプを集めると認定証を贈呈するスタンプラリーも併せて実施しました。



## 「日本と世界が出会うまち・堺 2015」プロジェクト

11月22日(日) 午後1時～5時30分

参加者数199名

堺市(主管:堺市博物館)と大阪大学(主管:大阪大学歴史教育研究会)の共催事業として、堺の国際交流の歴史などにスポットをあてたプロジェクトを平成25年度から引き続き開催しました。

内容は、サンスクエア堺ホールを会場に、応募のあった中学校・高等学校7校13グループによる堺の国際交流の歴史や世界遺産・無形遺産などをテーマとした研究発表会と、大阪観光大学国際交流学部専任講師後藤敦史氏による「日本と世界が出会ったとき・堺 1854」と題した講演会でした(『本誌』前号(第35号)に講演録を掲載。)

このプロジェクトは、日本や世界の歴史に対する理解を深めるとともに多文化共生の心を育み、アジアをはじめ世界各地との新たな架け橋となる人材の育成をめざして実施しているものです。

## 博物館実習

8月5日(水)～9日(日)(5日間)

実習生:8大学計11名

カリキュラム:

- (第1日) オリエンテーション、堺市博物館の事業と役割、展示場見学、施設見学、VR見学、世界文化遺産と百舌鳥古墳群
- (第2日) 博物館資料の管理と保存、世界無形文化遺産と堺市、お茶室体験、工芸資料の取り扱い
- (第3日) 考古資料の取り扱い、古文書資料の整理、体験学習会(ダンボールで仁徳陵を作ろう!)の準備
- (第4日) 展示企画の立て方について、体験学習会(ダンボールで仁徳陵を作ろう!)の補助
- (第5日) 美術資料の取り扱い、学校教育との連携と体験学習、発送作業、体験学習会(勾玉を作ろう、8月16日(日))の準備

## 博物館学芸員インターンシップ実習

関西大学より実習生1名を受け入れ7月12日(日)、8月9日(日)・10日(月)・23日(日)、9月6日(日)・13日(日)の6日間の実習を実施。館蔵資料の整理、展示準備の補助などを実習しました。



## 新成人招待プログラム

平成7年4月2日から平成8年4月1日生まれの新成人の方を対象に、平成28年1月11日から平成29年1月8日まで、成人式で配られる「成人式プログラム」を提示すると、歴史・文化を体験できる6施設を同伴者1名とともに無料で観覧いただきました。また当館では、月1回「成人式プログラム」提示の方を対象に、「ガイドツアー」も実施しました。(参加6施設:当館、みはら歴史博物館、堺アルフォンス・ミュシャ館、さかい利晶の杜、町家歴史館山口家住宅、町家歴史館清学院)

### 第33回古文書講習会

2月20日(土)・21日(日)

各日午前10時～12時、午後1時～3時

市民を中心とした博物館観覧者を対象に、近世の古文書の読解・解釈の講座を開催し、歴史に親しみながら堺市にちなんだ資料についての理解を深めていただくことを目的として開催しました。

講師：堺女子短期大学名誉教授 浅井允晶氏

2月20日(土)・21日(日)午後1時からの部

堺市博物館学芸員 渋谷一成

2月20日(土)午前10時からの部

堺市博物館学芸員 矢内一磨

2月21日(日)午前10時からの部

受講者：各40名

浅井允晶氏は江戸時代の堺の地誌に関する資料を教材にされました。渋谷は3月に開催予定の企画展「和田一族奮戦記」に関連して、和田文書を教材に、中世の堺地域について講義をしました。矢内は当館蔵の月次風俗諸職図屏風の下張り文書を教材に文化財修理にも触れながら講義をしました。

### 連続講座「百舌鳥古墳群の始めと終わり」

・4月29日(水・祝)「長山古墳の発掘調査成果」

堺市文化財課 海邊博史

・5月6日(水・祝)「ニサンザイ古墳の発掘調査成果」

堺市文化財課 田村唯史

・5月16日(土)「百舌鳥古墳群の終わり方」

堺市世界文化遺産推進室 十河良和

・5月23日(土)「バーチャルリアリティーで見る

百舌鳥古墳群」

堺市世界文化遺産推進室 十河良和

当館学芸課長 白神典之

・5月30日(土)「百舌鳥古墳群形成の前後

—百舌鳥野周辺のその時代—」

当館学芸課長 白神典之

### 職場体験学習

平成27年11月から平成28年2月にかけて、堺市立中学校12校から2年生50名を職場体験学習として受け入れました。



職場体験でデザインしたパズル



## 無形文化遺産の普及促進事業

堺市では、平成23年10月、ユネスコが賛助するアジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）が、独立行政法人国立文化財機構の一機関として堺市博物館内に開設されたことを受け、文化庁、IRCI等と連携し、無形文化遺産の理解促進のための事業を実施しています。

※東京シンポジウム以外の事業は博物館内で実施しました。

### ◆東京シンポジウムー文化遺産を考えるー （平成27年5月20日）

先人達の営みによって生み出され、悠久の歴史を超え、現代に受け継がれた有形・無形の文化遺産は、人類の遺産と言えます。科学の飛躍的な発展によりもたらされた近代文明の中にも、文化遺産の価値を再認識し、そこに学ぶべきものがあります。

今日、自然災害や人的破壊により、多くの文化遺産が消滅の危機に瀕している現状を踏まえ、本シンポジウムでは、様々な分野でご活躍の有識者から国内外の文化遺産保護の取組みや、ご意見、ご提言をお聞きし、文化遺産を未来に守り伝えることの意義について考えました。

□主催：堺市、国立文化財機構

□後援：文化庁、国立民族学博物館、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議

□会場：東京国立博物館平成館大講堂

《プログラム》

- 1 オープニング（ピアノ演奏）  
Arico 「百舌鳥古墳群ー時を超えてー」
- 2 来賓挨拶 山下和茂 文化庁文化財部長
- 3 主催者挨拶 竹山修身 堺市長  
「堺の挑戦」（プレゼンテーション）
- 4 講演  
中西進 堺市博物館名誉館長・国文学者  
演題：「文化遺産の持つ力」  
松浦晃一郎 前ユネスコ事務局長  
演題：「有形・無形文化遺産の保護」
- 5 パネルディスカッション「文化遺産を考える」  
（パネリスト（50音順））  
荒田明夫 アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長  
佐藤友美子 追手門学院成熟社会研究所所長、教授

西村幸夫 東京大学先端科学技術研究センター所長、教授

吉田憲司 国立民族学博物館副館長、教授  
（コーディネーター）

狭間恵三子 堺市副市長

◎ロビー展示

IRCIや堺市の歴史・文化の紹介

（参加人数258人）

### ◆無形文化遺産理解セミナー

◎こどもも大人も一緒に文楽

（平成27年8月29日）

3人の文楽技芸員をお迎えし、国立文楽劇場のご協力のもと、文楽の人形にスポットをあてて実施しました。



#### 【セミナー概要】

セミナーでは、まず、吉田箕紫郎さんが、吉田玉誉さん、吉田箕之さんを交えて、実物の人形を使って、人形の仕掛けや動かし方を説明した後、こどもたちが人形の操り方を体験しました。

また、セミナーの後半では、技芸員さんから人形遣いになったきっかけや将来の夢などをお聞きし、会場の小学生が、「なぜ、主遣いの人だけ顔を出しているのですか。」、「なぜ、みんな吉田さんなんですか。」と元気に質問する場面もありました。

セミナー終了後も、人形や技芸員さんとの記念写真を希望する多くの方が会場に残り、夏休み最後の週末、文楽への理解と技芸員さんとの交流を深めることができました。

会場では、国立文楽劇場のご協力により、「五条橋」の映像上映と人形に関するパネル展示も行いました。(参加人数108人)

### ◎トルココーヒーの文化と伝統

(平成27年10月31日)

ビンギョル・アリ NPO法人大阪トルコ日本協会副理事長による講演や、コーヒーの淹れ方の実演の後、満員の参加者は淹れたてのトルココーヒーとお菓子を楽しみました。



#### 【講演概要】

コーヒーは14世紀に現在のエチオピアで発見されました。オスマントルコに初めてコーヒーがもたらされたのは1500年頃で、1555年にイスタンブールで初めての「カフェハーネ」(カフェ)ができました。カフェにはいろんな人が集まり、そこから文化が広がりました。16、17世紀にコーヒーが徐々に世界各地に広がっていきました。カフェに集まる人たちが政治批判したことなどで、町のカフェが全部閉められた時期もありましたが、かつて、カフェは文化センターのような場所でした。

トルコ語で朝食は、コーヒーを飲む前の(食事)という意味があります。男性が好きな女性の家に求婚の挨拶に行くと、塩を入れたコーヒーが出されます。男性がそれを我慢して飲むと、なんでも

受け入れてくれるとみなされ、この男性と結婚してもいいと判断されるといった習慣があります。

「一杯のトルココーヒーは40年の記憶に残る」ということわざもあるように、コーヒーがトルコ文化の中でとても重要な位置づけにあることを物語っています。(参加人数97人)

### 無形文化遺産理解事業

#### 森の暮らしに根ざすザフィマニリの木彫り知識(マダガスカルは無形文化遺産)

#### ◆無形文化遺産理解セミナー

##### 「わざ」からみる、ふたつの無形文化遺産

##### —マダガスカル・ザフィマニリの

##### 木彫り知識を例に

(平成28年2月27日)

飯田卓 国立民族学博物館准教授を講師にお迎えし、実施しました。



#### 【講演概要】

ユネスコの無形文化遺産は、日本の無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術などに似ているが、微妙に異なってもいます。セミナーでは両者の異同を述べ、有形の文化遺産と比較しながら無形文化遺産の特徴を示したうえで、無形文化遺産を「物理的な修復でなく、実践の反復(上演、奉獻、製作)によって受け継がれる文化実践」と定義しました。また、モノづくりの「わざ」としての無形文化遺産を詳しく取り上げ、日本の結城紬や越後上布、宮古上布が高い商品価値をもつものに対し、マダガスカルに伝わるザフィマニリの木彫り知識は、生活必需品を生み出す側面が強いことを指摘しました。

アフリカ大陸の東に位置するマダガスカルは、日本から約1万キロメートル離れています。ザフィマニリの人びとが住んでいるのは、内陸に位置す

る首都アンタナリヴから300キロメートル南南東に行ったところで、雨量は少ないものの樹木の成長が比較的早い地域です。また、山が険しいためにトラックが通れるような道路がほとんど整備されておらず、商業的な木材伐採が盛んでないため、豊富な木材資源がもっぱら生活資源として確保されてきました。この地域には、他の地域でほとんどみられなくなった木造民家建築が多くみられ、幾何学的な浮彫りで木製窓や柱などを装飾しています。このように生活に根ざした工芸を生まみだす知識は、2003年にユネスコの「人類の口承および無形遺産の傑作」に登録され、2008年に無形文化遺産の代表的な一覧表に記載されました。

しかし、木彫り技術が国際的なブランドを獲得した現在、観光客が海外から当該地域を訪れるようになったため、生活道が遊歩道として整備され、木彫り製品もツーリスト・アートとしての商品価値をもつようになりました。この傾向が進み、生活必需品として発展していけば、豊かな文化的背景をもつ木彫りの価値も失われてしまう可能性が高くなります。一方現代では、暮らしに根ざした文化も、外からの需要にこたえて商品化を進めざるをえないという現実に向き合っています。ザフィマニリの人たちは、独自の文化的背景と、地域外の人たちが求める商品価値とのバランスをとりつつ、自らの文化を発展させていかなければなりません。その際、ザフィマニリの人たちは、彼らの文化遺産を存続させるため地域外の人たちに支援を要望することもできます。ザフィマニリの人たちが地域外との関わりをコントロールしていけるなら、グローバル化の状況も決して不幸なことではありません。今後の課題は、ザフィマニリのうち誰がどのようにコントロールを指揮していけばよいのか、時間をかけて考えていく必要があります。(参加人数53人)

### ◆コーナー展示

#### 木から生まれる芸術

#### —マダガスカル・ザフィマニリの

#### 木彫り知識—

(平成28年2月23日～3月27日)

マダガスカルとアジアとのつながりを示す楽器、無形文化遺産の代表的な一覧表に記載されている木彫りが施された戸戸や椅子などザフィマニリの人々の生活用品を展示しました。また、現地の写真や木彫り制作の映像資料なども紹介しました。



### ◆ワークショップ

#### マダガスカル・ザフィマニリの幾何学紋様を彫ってみましょう

(平成28年2月28日午前・午後2回)

飯田卓 国立民族学博物館准教授、朝岡知子さん(朝岡工房・大阪市立クラフトパーク織物工房非常勤指導員)、松長大樹さん(彫刻家・ワークショップファシリテーター)の指導のもと、展示場の展示品の幾何学模様などを参考に各自好きな紋様をスケッチし、木彫り作業を体験しました。(参加人数28人)



職員（平成28年4月1日現在）

職名		氏名	学芸分野	
名誉館長（非常勤）		中西 進		
顧問（非常勤）		溝口 勝美		
館長（文化観光局長兼務）		笠谷 実		
副館長（部長級）		谷口 裕子		
副理事		赤澤 明		
学芸課	課長	白神 典之	考古	
	参事役（非常勤）	久保 浩二		
	課長補佐	増田 達彦	考古	
	管理係	主幹兼係長	後藤 勝晃	
		主査	廣崎 晶子	
		副主査	坂本 世樹	
	推進係	主幹兼係長	廣瀬 香代子	
		副主査	倉橋 昌之	歴史
		研究員	橘 泉	歴史
		非常勤職員	吉田 豊	歴史・民俗
		非常勤職員	遠藤 浩也	
		非常勤職員	徐 素娟	
	学芸係	主査	柿沼 菜穂	考古
		主査	矢内 一磨	歴史
		副主査	宇野 千代子	美術史
		副主査	渋谷 一成	歴史
		研究員	堀川 亜由美	美術史
	学芸係（利晶の杜）	主幹兼係長	續 伸一郎	考古
		非常勤職員	安達 智美	文学
		非常勤職員	小松原 瑞穂	歴史
非常勤職員		餅原 智子	美術史	
非常勤職員	森下 明穂	文学		

博物館協議会委員（平成28年4月1日現在）

氏名	現職名
浅井 允晶	堺女子短期大学名誉教授
足立 久美子	(公財)堺都市政策研究所理事
今西 幸蔵	神戸学院大学教授
川口 祐司	堺市立泉北高倉小学校校長 平成28年3月31日まで
菅原 真弓	和歌山大学准教授
谷 晃	野村美術館館長
中村 浩	大阪大谷大学名誉教授
船木 佳代子	元和泉市久保惣記念美術館 学芸係長
森 範子	大阪府私立中学校高等学校 保護者会連合会相談役
山中 浩之	大阪府立大学名誉教授

平成27年度 堺市博物館 入館者数

( ) 内は開館日数

内訳	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	種別 合計	1日平均 (315)	
		(26)	(28)	(25)	(28)	(26)	(27)	(28)	(26)	(24)	(25)	(24)	(28)			
有料	個人	一般	1,251	2,443	1,172	1,221	1,887	1,568	1,132	1,146	754	774	1,021	1,284	15,653	50
		高大生	90	117	66	163	369	115	59	120	64	78	110	179	1,530	5
		小中生	181	452	100	212	643	150	62	69	43	77	58	175	2,222	7
		小計	1,522	3,012	1,338	1,596	2,899	1,833	1,253	1,335	861	929	1,189	1,638	19,405	62
	団体	一般	109	179	174	210	160	209	235	322	65	252	183	204	2,302	7
		高大生	1	6	77	2	6	148	79	58	29	45	3	12	466	1
		小中生	303	279	29	106	37	9	346	290	16	41	13	52	1,521	5
小計	413	464	280	318	203	366	660	670	110	338	199	268	4,289	14		
合計	1,935	3,476	1,618	1,914	3,102	2,199	1,913	2,005	971	1,267	1,388	1,906	23,694	75		
無料	小中生	413	408	1,409	422	634	430	206	1,153	397	1,217	2,223	357	9,269	29	
	身障者	222	344	242	179	203	198	295	232	121	156	171	233	2,596	8	
	招待/優待	51	29	2	19	87	12	21	39	59	12	13	15	359	1	
	共通入場券	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	
	ミュージアムバス	0	0	0	195	442	0	0	0	0	0	0	0	637	2	
	視察	59	64	54	232	120	77	134	228	106	89	95	34	1,292	4	
	65才以上	1,778	2,319	1,624	1,050	827	1,322	1,839	2,711	1,107	948	1,401	1,546	18,472	59	
	留学生	3	22	108	9	7	6	1	57	4	7	5	25	254	1	
その他	1,416	1,665	829	1,132	1,384	1,495	2,933	1,956	858	1,259	1,572	1,711	18,210	58		
合計	3,999	4,851	4,268	3,238	3,704	3,540	5,429	6,376	2,652	3,688	5,480	3,921	51,146	162		
観覧者合計	5,934	8,327	5,886	5,152	6,806	5,739	7,342	8,381	3,623	4,955	6,868	5,827	74,840	238		
無料ゾーンのみ	6,330	14,740	18,867	3,709	4,478	4,332	5,983	7,502	2,704	3,535	3,251	4,145	79,576	253		
総計	12,264	23,067	24,753	8,861	11,284	10,071	13,325	15,883	6,327	8,490	10,119	9,972	154,416	490		

・1日平均は小数点以下切り上げ。



## 利用案内

堺市博物館	■所在地	〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内
	■開館時間	午前9時30分～午後5時15分 ただし、入館は午後4時30分まで
	■観覧料	一般200円(160円) ※( )内は、団体20人以上 高校生・大学生100円(70円) ※65歳以上の方、障害のある方は無料(要証明書) 小学生・中学生 50円(30円) ※堺市在住在学の小中学生は無料 ※特別展期間中は別料金になります
	■休館日	月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始
	■交通	・JR阪和線「百舌鳥駅」より徒歩で約6分 ・南海バス「堺市博物館前」より徒歩で約4分

堺市立みはら歴史博物館	■所在地	〒587-0002 大阪府堺市美原区黒山281
	■開館時間	午前9時30分から午後5時15分 ただし、入館は午後4時30分まで
	■観覧料	常設展(ミニ展)：200円(160円) ※( )内は、団体20人以上 特別展：500円(400円) ※中学生以下、65歳以上、障害のある方は無料 企画展：300円(240円) (要証明書)
	■休館日	月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(ただし土曜・日曜日、祝日のときは開館)、年末年始
	■交通	・近鉄南大阪線「河内松原駅」より近鉄バス「大保」下車 ・南海高野線「初芝駅」より南海バス「下黒山西」下車徒歩約8分 ・南海高野線「北野田駅」より南海バスまたは近鉄バス「黒姫山古墳前」下車

さかい利晶の杜	■所在地	〒590-0958 大阪府堺市堺区宿院町西2丁1-1
	■開館時間	・観光案内展示室・千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 午前9時～午後6時(最終入館 午後5時30分) ・茶の湯体験施設 午前10時～午後5時(最終入席 午後4時45分)
	■観覧料	・観光案内展示室 無料 ・千利休茶の湯館・与謝野晶子記念館 大人(大学生含む) 300円(240円) ※( )内は、団体10人以上 高校生200円(160円) 小中学生100円(80円)
	■休館日	第3火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ※観光案内展示室は年末年始のみ
	■交通	・阪堺電車「宿院駅」より徒歩で1分 ※バスの場合、「宿院バス停」下車 ・南海本線「堺駅」より徒歩で約10分、バスで約3～5分 ・南海高野線「堺東駅」よりバスで約6分 ・JR阪和線/南海高野線「三国ヶ丘駅」よりバスで約10分